

## V32b 岡山理科大学CCD測光観測システムの紹介

田辺健茲（岡山理大総合情報）、山本勲（岡山理大工）、

伊代野淳（岡山理大総合情報）

我々のグループは、小規模ながら本格的なCCD測光用の観測施設の建設を目指し、次のようなシステムを昨年完成させた。主な構成は、光学系がTAKA HASHI製21センチセグレイン（ドール・カーカム）、架台は同社製赤道儀（EM200、ポインティングのソフトも同社製）、CCDはSBIG社のST6（ペルチエ2段冷却）である。フィルターはBesselのBVRIを装備した。これらを大学の21号館（7階建）の屋上にある2mドームに置き、7階の研究室から遠隔操作できるようにしている。測光データの整約ソフトはIRAFおよびパソコンで動くCCDIRの両方を併用している。観測地は岡山市の中心から約5kmと必ずしも良いサイトではないが、約18等級までは観測が可能であることがわかった。このシステムを用いて撮像したLandoltの標準星野のうちPG0918+029、ならびにNGC7790の測光データを解析して得られた変換係数、測光精度、ならびに国立天文台岡山天体物理観測所のOOPS測光システムによるデータとの比較等を報告する。